

○ 中学生の作文

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

転んでもただでは起きぬ

大阪市立 花乃井 中学校

三年 糸原 未希生

僕は「税」について、これまで特に深く考えることはなかった。もちろん、買い物に行った時に消費税8%を計算することはあったし、両親が自宅の固定資産税を納付する話を耳にすることはあった。ただ、なんとなく法律で決められたもので、払わなくてはならないものであるということは分かっていた。しかし、なぜ払わなくてはならないのか、集められた税金は何に使われるのか、その目的や理由については深く知らなかったし、特に考える機会もなかった。

今年の7月の休日に、僕は友人達と郊外の大きな公園に遊びに出かけていた。

期末テストも終えていた解放感と不注意もあってか、僕は激しく転倒してしまい、動けなくなってしまう。僕は激痛のなかでどうすればよいかわからなくなってしまう。その時、友人が119番に連絡してくれて、すぐに救急車が到着した。

公園の中で救急隊員がタンカをもってやってきて、応急処置を施した後、近くで受け入れてくれる病院を探して、連れて行ってくれた。診断の結果は鎖骨骨折であったが、もし救急隊員が駆けつけてくれていなかったらと思うと、僕はぞっとした。休日にも関わらず、迅速かつ的確な処置を行っていた救急隊員の皆さんに感謝すると共に、どうして助けにくてくれるのか、ふと考え調べてみた。「救急救命」は僕達が安心して生活していくために必要かつ、民間のサービスでは補うことが難しい「公的なサービス」であり、その財源は税金で賄われているということに気がついた。

また、僕は鎖骨骨折を治療するため、数日間入院して手術したが、退院の日に会計でお支払いした治療費は五百円であった。ワンコインで全身麻酔までした手術が受けられるのかとびっくりした。これは市の子供医療費助成制度という、子供の健全な育成や児童福祉の向上を目的とした医療費の助成制度のお陰であり、これも財源は税金で賄われている。

普段、気づかずに生活しているが、僕はあらゆる場面で税金を財源とする「公的なサービス」の恩恵を受けている。医療・消防・警察・道路・水道・福祉・教育など、様々な「公的サービス」があるが、いずれも社会での助け合いのための活動であったり、みんなのために役立つ活動であったりする。税金はそれらの活動を支えるための財源であり、納税者が公平に負担する仕組みが作られている。僕は中学生であるが、公立中学校の児童生徒一人当たりの年間教育費負担額は百万円を超えるらしい。貴重な税金を、僕達の教育に充てていただいていると実感し、無駄にはいけないと思った。今回、僕は転倒して痛い思いをしてしまったが、普段なかなか気づくことのない「税」を考えるきっかけとなったので、「転んでもただでは起きなかった」と前向きにとらえたい。

【西納税貯蓄組合連合会長賞】

駄菓子子の未来

大阪市立 堀江 中学校

三年 村口 暖佳

税金と人で国が成り立っている。それは言うまでもなく、当たり前のことだ。まだ十四歳の私は税金を納めていないから、税に関する知識も税金という概念ですらあやふやだ。そんな私でも、消費税ぐらいは分かる。今年の十月に8%から10%へ引き上げられようとしている消費税。これは私達が生活していく中で最も身近に存在している税だと思う。今回、10%に税が引き上げられることになり、私は軽減税

率という言葉を知った。初めは、消費税が上がるのか、程度にしか考えておらず話もボーっとしながら聞き流していた。だが、とあるニュース番組で駄菓子を巡った軽減税率に関するニュースを見た。私の目はすぐにテレビに釘付けになった。何を隠そう、私は駄菓子が大好きだったからである。笛のように音が鳴る容器に入ったお菓子、食べ終わったらペンにできるお菓子。他にも色々あるが、この二つは軽減税率の対象にはならず、10%の消費税で発売されるらしい。これにより、企業が商品名を変えたり、普通のおもちゃ感のない駄菓子に変えてしまうそう。無論、値段が上がって売れなくなるからである。そもそも、軽減税率とは何なのか。これが私の一番気になるところだ。軽減税率とは、十月に消費税が10%に引き上げられることと同時にスタートする経過措置のこと。その内容は、酒類及び外食を除く飲料品は消費税は10%ではなく、8%でいいよ、とのことらしい。この措置はすでに欧米諸国で行われているそう。ただ面倒くさそうだと思うのは失礼だと思いがこの措置に対応できるようにスーパーのレジに商品を登録し直さなければならぬと思うと、私は嫌になる。駄菓子の話に戻るが、何故10%のままのお菓子があのかと思えば、非常に極端な例が上げられていた。百万円の壺の中に軽減税率の対象になる何かを入れ、壺ごと販売すると、それは8%の消費税で売られてしまうことになるそう。10%の駄菓子は極端な例と考えられたらしい。本当に妙なルールだと思う。これでは、楽しいと思える駄菓子が消えてしまうのではないかと心配になる。駄菓子は面白くて楽しい。だから子供達がこぞって買いに来るのではないのか。消費税は大切で、政府も色んな人も考えてくれた結果がこの措置なのかもしれないが、私は駄菓子がなくなること嫌だ。そもそも、何故消費税を上げることになったのか調べてみると、少子高齢化であった。確かに、待機児童問題や年金問題、解決しなければならぬことはたくさんある。その糧になるのなら、納めていない私が言うこともおかしいのだが、頑張つてほしいと思う。皆のお金だから、皆を助けるために活用してほしい。軽減税率は難しく、私には理解できないことも多かったように思える。大人になったら、駄菓子の件も必要なことだと割り切るのだろうか。それでも、今の私は何が消えてしまうのは嫌だ。

【西納税貯蓄組合連合会長賞】

「他人事」ではないもの

大阪市立 西 中学校

三年 村川 颯世

「ええー、また消費税上がるの。」

それが第一の感想だった。今年の十月から消費税が十パーセントになるというのだ。これについて今の時点で私は反対である。というのも理由は単純でより多くのお金を払わなければならないからだ。そもそも何のために消費税があるのかも正直分からない。そこで私はどうして消費税というものが 필요한のか、調べてみることにした。

結論から言うと、消費税はとても大切なものだった。私達が払った消費税は社会保障、つまり年金や医療保険、介護保険、生活保護など、たくさんの人々を助けられるお金になっていることを知り、見方が変わった。嬉しく思ったのだ。今までどうして払っているのかも分からず、増税が決定し、良く思っていなかったがその税が苦しんでいる人や助けが必要な人のもとへいき、幸せにしてくれていると思うと、間接的にはあるが人助けをしているようで心が温まった。だが、だからといって増税をし続ける、というのも今度は消費者に負担がかかってしまう。ここで初めて私は税との関わりが気がついた。少子高齢化が進んでいる今、医療保険や年金、介護保険など、今後さらに払わなければならないのではないのか。それをにやがていくのは他でもない私達ではないか。そう考えると今まで他人事であった「税」がとても近づいてきたように思えた。税というのは見えていなかったただで実は未来の自分や今の自分、身の回りのものそれぞれに密着していた。それを知った今、私達に何ができるのか。私は今、払わなければならない税をしっかりと納めること、そして他人事では終わらせないこと、自分たちにとって税とはどのような関わりがあつてどうして必要なのかを考えていくこと。だと思う。正しい税に関する知識が無いと以前の私のように「払いたくないから」と言う理由で助けられるはずであった人が助けられないかもしれない。だが少子高齢化が進む、今の時代、今後たくさん

税が必要になる。それを払っていくのは私達だ。だから私は正しい判断をして、たくさんの人々を助け、また若者たちにも負担がかかりすぎないように、今よりもっと税に関しての知識を広げていきたいと思う。そして同じように、たくさんの人に税を知ってもらい、これからの世の中を全ての人が生きやすくできるよう、まずは自分が、しっかりと税を納めていきたいと思う。

【西税務署長賞】

「世界一幸福な国」のように

大阪市立 花乃井 中学校
三年 平岡 果虹

私は最近、学校で税について学ぶ機会がありました。その時私は、日本の消費税は世界的に見て低い方であるということを知りました。

「世界一幸せな国」と呼ばれるデンマークの消費税は25%。これは世界的に見ても上位の税率です。これだけ高い税金を払いながらも、幸福度の高い暮らしができるのには、デンマーク人の根底にあるお金の使い方に対する考え方や、ライフスタイルが関係していました。デンマークでは、使わなくなったモノ、必要なモノを「シェア」する、という習慣があります。何を購入するにしても、「本当にそれだけのお金を払う価値があるのか？」ということに常に意識している人は多く、一般的に物を購入する際は、『4R』の考え方が基本であり、創意工夫をして暮らしています。その姿勢はライフスタイル全体にも表れ、多くの人が複数の個人や家族で集まり、共同生活を送っています。そこでの暮らしは、居住スペースは個人や家族単位でも、食堂や洗濯室などは「シェア」し、食事作りは当番制にしていることが多いです。

消費税25%で高額であるが、デンマークでは福祉サービスが税金でまかなわれ充実しており、納税者へのリターンが日常生活の中で実感しやすいため、国民は税金に納得している雰囲気があります。税金の高さではなく、富の分配がうまくされ

ているか、という点に国民の意識は向いており、小学生くらいの子どものころから政治的関心は育まれ、家庭の会話に政治的な話題が上がることも少なくない、といえます。このような市民意識の高さが、税金への納得感につながっていると考えられます。

日本国内で騒がれる増税問題。

「消費税増税反対！」

という声が多く上がります。ですが私は今回の学習を通して、国や法律が変わらずとも、デンマークのように、国民自身が創意工夫をして生活したり、国民意識が変化することで私たち国民の暮らしはより良いものになるのではないか、と思いました。私はこのことを今回の学習で知り、考え、気づき、税について学ぶことは大切なんだな、と気づきました。消費税とは、私たち中学生も唯一払っている税金であり、その税金とは、私たち日本国民の生活を支えているものです。私はこんな社会の仕組みを理解し、税への考え方が少し変わりました。これからは、税について意欲的に学び、税を納めることで社会に貢献していけたらな、と強く思いました。

【西税務署長賞】

愛車の買い替えと消費税

大阪市立 堀江 中学校
三年 仲南 花菜

15年も乗っていた我が家の車を、この夏ついに買い替えた。私が生まれた時から思い出を共にしてきた愛車なので、手放すのは悲しかったが、母いわく「10月までに買わないと6万円損をする」とのこと。6万円！それは大きい・・・新幹線でデイズニールランドへ行つて、遊んで、泊まって、帰つて来られるではないか！その時初めて、税金ってなんて大きいんだ！ちゃんと知らなければ！と興味をもつことができたのだ。

「6万円損をする」と母が言う理由は、今年の10月に消費税が現在の8%から10%になることが原因だった。車が300万円なので、今買えば消費税が24万円になるところを、10月になると30万円になり、その差額が6万円という計算だ。もちろん6万円も大きい、今買っても24万円も消費税を払うことにさらに驚いた。いつも278円のシールが付いているシャーペンがレジでは300円になることで、消費税をちよつと憎らしく思っていたが、22円と24万円では桁が全然違う！そもそものなせそんなに税金を払う必要があるの？と思っていると、ちょうど次の日曜にある参議院選挙の候補者が大きな声で「消費税の廃止を約束します！」と家の前を通り過ぎた。そうだよ、消費税なんてなくなればいいのに！

そこで私は、消費税の少ない国について調べてみると、気になる記事を見つけた。なんとアメリカには消費税がないらしい！しかし、このような記事も見つけた。アメリカでは救急車を呼ぶのにもお金がかかるというのだ。しかも日本とは違って健康保険が任意なので、保険に入っていない人は病院に行くだけでかなりの高額になることから、歯が痛くなつても自分で抜く人もいるとか！いくら消費税がなくても安心して病院に行けないようでは困る！

さらに世界の税金を調べていると、スウェーデンなどは、国民の税負担も多いけれど、社会保障も手厚い「高負担・高福祉」国であるのに対して、日本の税金は、世界の中では低く、それなのに社会保障はある「低負担・中福祉」国なのだという。しかも、高齢化で福祉の需要は増える一方なのに、このままの低負担だと、福祉の財源が尽きてしまうのは、私にだって想像できる。

何かあった時に病院に行けるのも、税金のおかげ。もちろん、私たちが安心して学校で勉強できるのも、税金のおかげ。大切な税金をみんなが公平に負担するため、消費税が上がるというのは仕方がないことなんだな、と今回初めてわかった。

「6万円は大きいから、やつぱりこの夏、車買おうね」という母に私は心の中で思った。「でもその6万円は『損』ではないんだよ。将来、自分に返ってくるお金なんだ！」

【公益社団法人西納税協会長賞】

税金に支えられている私達の生活

大阪市立 西 中学校

三年 古田 桃愛

「税金」ときいて最初に思い浮べるのは消費税です。唯一、自分で納めていて身近なものだからです。他にも所得税や相続税などたくさん税金が世の中にはあります。そしてたくさんのお金に使われています。私が普段普通に学校に行き友達と遊び不自由な生活を送っているのは税金のおかげです。

例えば児童扶養手当や、医療費助成制度などです。私は父親がいない、いわゆる母子家庭です。児童扶養手当や医療費助成制度についてはよく知らなかったのですが調べてみると自分に関わりのあるものだと知りました。医療費助成制度は、片親の家庭が医療機関を利用したときに払うお金が軽減されたりすることです。普通の家庭と違うところは、親も軽減される点です。病気は治さないといけないけれど病院で払わなければならないお金が多いと簡単にはいけなくなるのです。ばらしい制度だと実感しました。児童扶養手当は、片親のために、お金が支給され使用できます。このお金の使い道は色々あるので何に使っているかを母さんに聞いてみると「生活費」

と聞いていました。家族の生活に本当に役に立っています。他にも塾助成で塾に通うことができていたり、今まで知らなかっただけでこんなにも支えがありました。今の時代は母子家庭や父子家庭の人がたくさんいます。そのような人たちが少しでも楽に生活することができる世の中になるために税金は必要です。

もう一つの例は、ゴミの処理費用や、警察費・消防費などの公的サービスです。私たちの住んでいる町のゴミの処理や道路の設備は税金で行われており、快適に過ごすことができ、警察や消防のおかげで安全です。それだけではなく身のまわりには税金のおかげなことがたくさんありました。

医療費助成制度などがあったい何で納められた税金が使用されているのか、気に

なつたので調べてみました。しかしよくわからなかったので少し考えてみました。お金には色がついていません。なので何で納められた税が何に使用されているのかは明確には分からないと思います。もしかしたら、自分が納めている消費税が医療費助成制度に使用されてるかもしれません。そう思うと百円のモノを買うときに八円や十円の消費税を納めることにグチグチ言っている自分が恥ずかしくなりました。

税金のおかげで私は病院に行けたりしています。税金の制度は難しくて分からないことがたくさんあるけれど一番大切なことは考えることです。自分の生活を支えてくれているものだから。

【大阪府中央府税事務所長賞】

税金の存在価値

大阪市長 堀江 中学校
三年 藤 定 桃 花

私は、正直税金がどのようなもので、どのように利用されているのか分かりません。でも、今回税についての作文を書くにあたって、改めて税金というものがどんなものなのかを考えていきたいと思っています。

まず、私たちと税のかかわりについて考えてみます。私たちの身近にあるもので税がかかっているものは、学校の一部や図書館などです。私の住んでいる近所にとっても大きな図書館があります。すごい量の本や読むスペースがあり、ゆったりとした広さでとても居心地が良いです。そんな場所が税金から作られているなんてすごいと思います。

しかし、なぜ税を納めなければいけないのでしょうか。私はインターネットを使って調べてみました。大きな理由が二つありました。一つめは、日本国憲法で定められており、国民の三大義務のひとつが納税であるからです。三つの義務とは、勤

労、教育、納税の三つです。三つを並べて考えると、働くことも教育を受けることも義務であることは当たり前なことなので、納税という義務も当たり前なんだと思いました。

二つめの理由は、社会を運営するために税金は必要不可欠だということです。何かあったとき一〇番すると警察官が来ることや、火事が発生したら消防車が消しに来て、けが人がいたら救急車が急行します。他に、信号が赤になったり青になったりすることで、交通もスムーズで事故が起これないようになります。軽く考えてみただけの日常生活におけるすべてのことに税金が関わっています。逆に、税金を納めなくなっていくと、この日常生活のサービスは寸断され、たくさん問題が起これていきます。税金がきちんと納められることで何事もなく生活ができていくということが理解できます。改めて、税金を納めることの感覚が少し変わってくると思います。百均で買い物をするとき、百八円だと、八円はいらないのではないかと思うけれど、その八円をきちんと納めることで、私たちは生活できているのだと思います。

最後に、これから税はどうなっていくのかを考えます。テレビなどでよく少子高齢化という言葉聞きます。若者が少なくなると、高齢者が増えていくこの状況は、負担がかなり大きくなっていくと思います。持続可能な社会を作っていくためには、例えば、高齢者が活躍できる社会の実現や、働きながら、子供を産みやすく育てやすい社会の実現を改善策として考えていく必要があると思います。豊かで安心して暮らしていける社会を作っていきたいです。

この作文を書く前と、書き終えるときでは、税に対する考え方が変わりました。私たちにとって税金の存在は大きく、すばらしいものだと感じました。この当たり前な日常を壊さないためにも、税金を大事に扱っていくべきだと思いました。

【大阪市弁天町市税事務所長賞】

百パーセントのサービス

大阪市立 花乃井 中学校

三年 恒松 航輝

私は十月が嫌い。それは消費税の増税があるから。私たちがよく買う食品には増税されるととても困るから軽減税率がとり入れられて助かった。しかし、今こうして書いているペンなど、食品以外で買うものには十パーセントの消費税を払わなくてはならない。学生など、使えることのお金が決められている人たちにとてもは非常にダメージが大きい。反対に、大人はどうだろうか。大人は子どもよりももっと高い買い物をする。その分、増税でかかる負担が大きくなる。

だが負担ばかりではない。保育園の無償化など、今までになかった保障により、子どもがいる家庭にやさしくなったりする。そこで考えてみると、子どもがいない家庭や学生たちには何の利益があるのだろうか。払う額が増えた税金は保育費や国の借金を返すために使われている。税金を払うことに不満はない。みんなそうだと思う。義務だから。ただ、その税金の使い方をもう少し考えてほしい。

三十七億六一二三万円。とても大金が、学校のブロック塀を改修するために使われた。私の学校でも、ブロック塀があったところは柵になっっていることに最近気がついた。この取り組みは、行わないと今後人が亡くなる可能性があったため正しい使い方に思える。と思えば、今度は六月に行われたG20で三億円も使われている。一見使いすぎだと思っただけで、世界に大阪という地名が広がった。効果は大きい。大阪のさらなる活性化や、公共物が増えたりする可能性が十分にあるといえるだろう。このように、なるべく多くの人に良い影響を与えられるように税金を使っただけではない。世界的にみて日本の消費税は十パーセントになったとしても高いほうではない。ヨーロッパでは二十パーセントをこえる国も多い。現在日本では、病院の代金の負担や図書館の利用など、全員が公平に受けられるサービスがある。ヨーロッパのようにパーセントが高いと、サービスが増えて病院の全額負担や、公共交通機関が無料などうらやましいことばかりだ。けれど、収入が少ない人や路上でく

らしている人たちは、そんな高い消費税などは払うことができないはずだ。いくら良いサービスがまわっていても、税金を払うひと、つまり国民全員に良い方向で使わなくてはいけないと思う。幸せな人が多く、辛い思いをしている人もいる社会よりも、幸せな人もいて、辛い思いをする人がいない社会のほうが、きっと税金を払う国民にとって対等だろう。これからの日本の税金の増え方はわからないけれど、国民を一心に考えて多くの人が納得できるようなサービスをつくってほしい。

【近畿税理士会西支部長賞】

Tax(税)に夢を託(たく)す？

大阪市立 花乃井 中学校

三年 追風 輝季

「消費税が八パーセントから十パーセントに増税されるなんて嫌だ。」「これから生活はどうなるの?」「理由なく増税なんてするもんじゃない。」「という反対の声が多く上がっています。私も消費税が上がればお菓子やジュースを買い控えると思います。消費が下がり、税収が減り、大人達がまた不景気だと叫び、そのおろしを受ける子ども達の笑顔も奪ってしまうのではないかと心配しています。それでも増税を進めるのは何故だろう、影響がどのくらいあるのか、他の方法がないのかなど考えてみようと思いました。

税が何に使われているのか。医療や警備、公共サービスと、生活に欠かせない事に使われています。私が風邪をひいて病院で診察を受けても定額の支払いであるのは税のおかげです。目に見えて有益な税の使い道がある一方で、大人たちが声を上げて怒っている事案もあります。意見の相違もありますが、多くの人が無駄と感じることに税を使わず、無駄遣いをしていませんか。例えば、増税についても否定的な意見を言う人が減るのではないかと思います。税が本当に国民に必要なことで使われているかを心配しているから増税に反対する声が多く上がっているの

ではないのでしょうか。

日本の高齢化率を知っていますか。約二十七パーセント、世界一位の高齢者が多い国です。今働いている人たちが支払う社会保険料で年金を支払っています。給与の約十四パーセント、給与が二十万円の人には年間で約三十三万円納めています。少子高齢化が続く中では、給与からの税収は増える一方です。

特定の人に負担が集中せず、国民全体が広く負担する消費税が一番安定していて、集めるのに適していることから、消費税の増税をするのがふさわしいという考えを財務省が公表しています。しかし国からの年金のみで暮らしている方にも同一に負担をしてもらうにはいかがなものかと思っています。

結局、消費税増税は何の為にするのか。社会保障の財源にするためだと言っていますが、法人税減税の穴埋めの為に、景気の動向にも左右されない消費税で財源を賄うことが知られているから反対の声が多いのだと思います。法人税を減税しても企業は利益を内部留保し、海外進出の為に投資する現状です。

ではどうすればよいか。日本の高い技術力が海外から賞賛されています。日本では認められなかった物、例えばアニメやゲームは大人達が「そんなものは仕事にならない」と言ってきたものですが、今では世界を凌駕しています。古くからある日本の文化を学びたい人も増え、来日されています。高齢者の中には技術を継承できるが引退されている匠がたくさんいらつしやり、社会復帰が出来ます。

私は日本から誇れる物を世界に発信し、海外に売り込むことで法人税や所得税を増収出来れば消費税を上げることはないと思います。

○ 高校生の作文

税について

大阪市立西高等学校

一年 七野 芽依

税金とは、と聞かれば私はまず一番に、「消費税」と連想する。というよりそうとしか連想できないというほうが的確だ。他にも所得税や法人税、聞いたことはあるがあまりピンとこない。だが、私達の周りにはたくさん税金で成り立っていることを知った。正直に言う、今まで税金なんて知らない。何でもお金を払わないといけないんだ。なんて思っていた。だが、もし誰も税金を納めなくなるとどうなるのか考えてみた。火事が起きても、事件が起きても消防署や警察署がないのとめてくれる人なんていない。町はゴミであふれかえり、整備されていない道路では右も左も分からない。学校にも行けない。安心して水も飲めず、病院なんてもつてのほか。さらに国や地方の議会も出来ないで発展途上化、国は廃れていく一方だ。そう思えば自分がおさめた税金が誰かを助ける。私も誰かに助けられる。一年前の台風の時、私の住む地域一帯が停電し、ガスも水道も通らなくなったことがあった。その時も国が動いてくれた。今思えば自分自身や他の知らない誰かの税金のおかげなのかも知れない。そう思えば税金とはとても大切でなくてはならないものなんだと思った。また、あと二十年もすれば、高齢者一人に対して一・六人で支えていかなくてはならない日を迎えるそうだ。この数字で将来の社会の大変さが身にしみて分かる。そのためにも、十パーセントに増税しようという話も出ているのだ。しかしいくら増税をして国の収入が増えても税金が正しく使われているかなど分からない。そのためにも、おさめた税金がどこに、どんな風に使われているかなどについて興味をもつべきだと思う。現在、高校一年生である私たちは、あと二年もすれば選挙に参加できる歳になる。その時のために、税金のしくみをまなび、

それをより良い使い方をしてくれる人をえらべるようにするためにも積極的に知識をもつように努力し、自分の考えを持てるようになるべきだと思う。自分には関係ないなどと思わず、よほど遠くない将来のためにも社会を支える一人間として税金を納めようと思う。

税について

大阪市立西高等学校

一年 塩山 詩織

「税金十パーセントに引き上げます。」というニュースが流れた。このフレーズを聞く和生活用品など物を買う為にお金が高くなってしまおうとほとんどの人が思うだろう。だが、実際のところどんな風にどこで使われているのかをイマイチ理解していないからなのではないかと私は、思いました。政府はただ、国民から税金を取り、それを政府が使いたい様に使っている訳ではないのだと思う。

例えば、二〇二〇年の一代イベント東京オリンピック開催の為や緊急の災害の為電車やバス、ライフラインなど国をより良くする為や国民の皆さんが何気なく利用しているものを動かしたりする為、つまり、一つの国の政治の為に必ずと言って必要なのです。

もし、仮に日本から税という概念が無くなったなら、水や電気の利用料が急激に高くなる恐れがある。また、病院や消防、警察の出動願いでも、お金がかかってしまうかもしれない。これは、私達国民にとって生活が苦しくなってしまうと私は思うのです。だから、税金は政治の為に私達にとっても、とても大切なのです。

ですが、やはり消費税引き上げなどを聞くとうれしくはありません。いくら国の為、政治の為と言っても嫌なものは嫌です。そこで私は、海外と日本の税金についての違いを調べました。所得税が一番多い国それはハンガリーでなんと、税率二十七パーセントなのです。日本とは比べものにならないくらい高いのです。しかし、

ただ税率が高いだけではありません。医療費、教育費が無料であつたり、公共施設が整っていたりなど国民の皆さんにもメリットがあるのです。また、税率が変化することもあまりありません。そこで、私は思いました。日本も同じ様に税率を高くして、そこから変動せず一定で、公共施設をもっと整っていける様にすれば良いのではないかと思つたのです。

今の私達が税金に対して良いイメージを持てていないのは身近に感じれていないからなのではと私は考えたのです。つまり、国民の皆さんが税金を払っている事で感じられるメリットをもっと増やしていかないといけない。それには、税金が必要。そこから施設が増え今、問題の少子高齢社会による年金の負担額の増加問題も少しは解消できるのではないかと私は思うのです。

人それぞれ、税金に対する考えは違います。ですが、私は国をより良くするには税金が必要であり、私達の為でもあるのです。

だから、私は税があることは私達、国民にとって良い事なのではないかと私は思います。

税金から見る私たちの生活

大阪市立西高等学校

一年 一甲 有那

私たちはいつも何らかの形で税を払っています。

「もしも、税金が無ければなあ。」

と多くの人は思うでしょう。

しかし、少しの負担で私たちの生活は暮らしやすいものへとなっています。

たとえば、ゴミ処理費用、国民医療費の負担などです。毎日、ゴミを持っていって無料処理してくれるにも、入院、診察などがわずか五百円を自己負担するだけでしてもらえるのにも費用というものが必要になります。そうやって一人一人

の負担をみんなで負担する。このシステムが税金だと私は考えています。もしこの国に税金というものが無ければ、今例を上げたこの二つは存在しません。みなさんはこんなことを考えたことがありますか。

「学校なんて行きたくない。」

と。特に、義務教育期間である小学生の子たちは思うはずです。しかし、自分たちが勉強できているのは、実はとても恵まれたことでそのこと拒むことは、他の国の勉強したくてもできない貧しい子供たちを侮辱しているようなものです。公立学校に通う小学生一人当たりの年間教育費の負担額はなんと約八十七万六千円にもなるのです。だから私は学校に行かないというのは甘えだと思えます。いじめられたというわけでもないのに学校に行かないというのは許すことができません。学校なんて行きたくないと言う人は、もしこの国に税金がなくて、お金を持っている人だけが勉強することが許される。そんな未来を想像してみてください。できないのであればこんなことになった貧しい国の子どもたちに目をあててください。自分の周りだけでは無く、もっと視野を広げてください。

それは他の税金でまかなわれていることでも同じことが言えます。私たちが学校に通えて、医療を受け、綺麗な場所で過ごせるのもこの税金というものがあるからこそです。

だから自分のためそして人のため税金は必要なものです。一人一人をささえるシステムであるからです。

高校生の税

大阪市立西高等学校

一年

中村

穂乃香

私達高校生は直接、税との関りが少なく大人より税について考える事は少ない。私もその一人でこの作文を書く機会がなければ正直、興味すらなかっただろう。しかしこの作文を書くにあたって少し税について調べてみた。すると日本は世界で二

番目に国民が税金を多く払っている「重税国」である事が分かった。私達高校生がそれを体感するのは消費税を支払う時である。父に聞いた所、三十年程前までは消費税が〇パーセントだったそう。それが今では八パーセントになっており、十月からは十パーセントになる。これはあまりに高すぎると思う。高校生のおさいふには負担が大きい。しかしこうして税金を払う事によって私達の生活は保障されているらしい。意識して考えた事はなかったが、私が病気になった時の医療費、友達とよく行く公園、いつも勉強している図書館までもが税金によって保障されているのだ。これが日本が「重税国」である理由である。

そんな中、私はとても興味深いランキングを見つけた。それは「世界幸福度ランキング」と呼ばれるものである。気になる日本の順位は五十八位だ。百五十六カ国中の五十八位は決して低過ぎるという訳ではないが、正直日本はもう少し高くてもいいのではないかと思う。なぜなら日本は世界二位の重税国であるからだ。幸福度ランキング上位十位のうち半数を北欧諸国が占めており、北欧諸国は消費税二十五パーセントの重税国なのである。そんなに消費税が高くても幸福度が高いのは一体なぜなのか。その理由は国への信頼度である。税金を高く支払ってもその分の補償やサービスがあれば幸福度は高くなる。もちろん日本も十分すぎる補償であるが、北欧諸国は日本を越えた補償やサービスが受けられる。私達高校生にとって嬉しいのは大学まで学費が無料であることだ。このように北欧諸国の幸福度が高いのは国民への還元システムがしっかりと整っている事で国への信頼が厚いからなのだ。

少子高齢化が進む今の日本では北欧諸国のようになる事は難しいのかもしれないが日本でも国民が満足できるような税金の使い方がさらに行われていく事、それにより私達高校生が大人になった時、日本が幸福度のより高い国になっている事を強く願う。

税と未来を担う子どもたち

大阪市立西高等学校

二年 清水 仁一郎

税に関して熟知できていない私は、日本での教育に対する税に興味を持った。私が抱く日本の教育の税に関する疑問を具体的にすると、まず一つは「日本の教育における税の大切さと内訳はどういったものなのか」ということ。二つ目は、「学力世界一」と評されるフィンランドと日本の教育を比べるとどうなのか。そして、三つ目は、日本の教育に対する私の意見だ。

まず、日本の教育に対しての税の使われ方についてだ。初めに考えなければいけないことは「もしも税金が教育に使われないとどうなるのか」ということだ。なぜなら、その存在が無くなった時のことを考えないと、その存在の意味や大切さを知ることができないからだ。まず全ての学校が営利団体となり、教師は会社員になり、机や椅子、本などは保護者の自費になる。当然学校に行ける子ども数の減る、つまり、教育に税金が使われないと、子ども達が自由に学べない。自由に学べないと就職をすることができない。そうすると、貧富の差が大きくなる。そうならないためにも教育に税は使われるべきだ。教育に使われる税の内訳は主に二つ。学習に必要なものを支給するためと、新しい研究、開発のためである。ちなみに、日本の教育に使われる税の金額は約五兆六千二百二十五億円になり、全体の約五・五パーセントだ。私は、この数字は非常に少ないと思っている。日本はもともと、未来の日本を支える若者達への先行投資をするべきだ。

次に日本の教育の税を他国と比べてみる。まず、「学力世界一」と言われるフィンランドと比べる。調べてみると驚くべきことが分かった。フィンランドの授業日数は百九十日で日本と比べると四十日ほど少ない。そうすることで、フィンランドの子供達はフレッシュな状態で、自発的に勉強を取り組めるモチベーションを保つことができる。さらに、小学校から大学までの授業料は無料だ。フィンランドでは、教育に関しては無料になる一方、二十三パーセントもの消費税や二十パーセント以

上の所得税など、重い税負担がある。その内約十一パーセントを教育に使っている。それほどフィンランドでは教育は大切である。

最後に、日本の教育に対する私の意見だ。私は今の日本の教育には、全く満足していない。なぜなら、日本内での学力の差があまりにも大きいからだ。どのような家庭環境の子ども達もしつかりと勉強ができる環境を作るべきだ。例えば、学校の授業の一つとして、図書館室に行くことだ。学力一位のフィンランドは読書量もトップだ。それほど読書が与える影響は大きい。しかし、自発的に図書館へ行く人は少ない。だからこそ、本を読む機会を取ることが必要だ。優秀な生徒を作り出すには、教育の制度が優秀でなければならない。

税の可能性

大阪市立西高等学校

二年 伊藤 華

私は、幼い子どもたちの未来のために税を使うべきだと思います。税の全てをと言っているのではなく、できるだけ多くの割合を子どもたちのためにあててほしいと思っています。

私がこう強く思うようになったのはある大学のオープンキャンパスがきっかけでした。私は保育系に興味があり、ちょうどその講義が受けられるということで楽しみにしていました。いざ受けてみると、内容は衝撃的なものでした。「子どもを巡る社会的諸問題」と題し、児童虐待や保育所持機児童、いじめや不登校など子どもに関わる深刻な問題の背景や要因などを詳しく聞くことができました。初めて聞くことだらけで誤解もありましたが、私たちと全く関係ない問題ではないなと思いました。そこでこれからの問題を解決、又は解決までには至らなくとも改善していくために税の力が必要なのではないかと思いました。

例えば、児童虐待についてです。最近特に虐待による悲しいニュースをよく耳に

します。詳しく調べてみると「児童相談所」というのが気になりました。虐待や不登校など子育てに関するあらゆる相談に対応してくれる施設で、虐待から子どもを守るための大きな役割を担っています。しかし現在、その児童相談所が負担の重さを問題視されているようです。児童相談所は子どもの命が左右される虐待事案への介入と支援のバランスの調整や今後の予測、関連学校との情報交換など精神的、肉体的にも大変な仕事がほとんどです。それに加え、少ない人数で多い日で二百本の電話を受けなければなりません。子どもたちを救うにはその子どもたちを支援救助してくれる大人の方々、施設を私たちで支えていかなければいけないと思います。そのひとつの方法が私たちが納める税だと思えます。その税を使って、児童相談所の職員の数を増やしたり、職員の人材育成などできることはたくさんあると思います。直接自分が関わってなくても、日本のどこかでだれかのために役立つことができるのが税のいいところです。今もこれからもそうである社会にしていきたいです。

消費税と社会保障

大阪市立西高等学校

一年 野村 涼真

私は日本の一般会計歳入額と一般会計歳出額の内訳の円グラフを見ていて、公債金と国債費を比べると、公債金の方が約10兆円も多い事に危機感を覚えた。

これが意味するところは、年に25兆円の借金をして、その内返済しているのは14兆円で、一年ごとに11兆円の借金を抱えることになる。つまり政府は財政赤字を抱えているのだ。

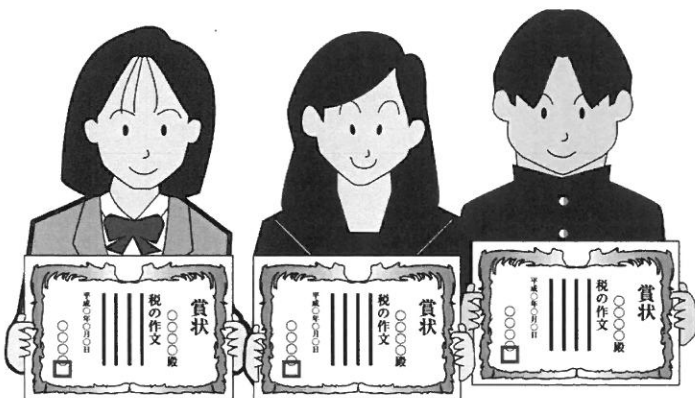
私は、何故日本は財政赤字に陥っているのだろうかと疑問に思い、その原因について考えてみると、ある考えが浮かんだ。それは、消費税率と社会保障の不均衡だ。日本の消費税率は8%だ。今の日本社会ではこれでも高いと思われている。しかし私は日本と同じように先進国で社会保障が充実している欧州の国と日本を比較

してみると、日本の消費税率は低いものだと思う。例えばイギリス、フランス、オーストラリアの消費税率は20%と日本の約二倍だ。さらに高い国ではデンマークやスウェーデン、ノルウェーで25%だ。皆さんはこれを、高すぎる!と思うかもしれないが、これがヨーロッパの先進国の標準的な消費税率なのだ。

私は、日本の社会保障は現状でも十分に充実していると考えている。学校は高校まで無償で通え、年金制度もあり老後も最低限の暮らしは保障されており、緊急時には警察官や救急隊が対価なしに駆けつけてくれる。そんな充実した社会保障があるにもかかわらず消費税率が8%とは低いと思わないだろうか。

このことから私は、日本の消費税率は今の社会保障と釣り合っていないと思う。その結果が今の財政赤字に繋がっているのではないか。

このことから私は、消費税率は引き上げるべきだと考える。だが、恐らく現状の日本社会では、消費税率を上げるといふのは大きな反発があるだろう。だからこそこれからは、国民全員が日本の社会保障への理解を深め、社会保障が充実している日本社会の消費税率の低さに気付くことが大切なのだと思う。



○小学生の習字

【最優秀賞】



〔九条北小学校 5年 前田 美優里〕



〔九条東小学校 3年 大出 采奈〕



〔堀江小学校 4年 藤本 悠生〕



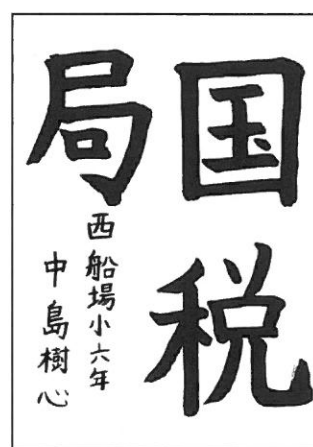
〔日吉小学校 5年 大山 真拓〕



〔九条南小学校 6年 津江 希空〕



〔本田小学校 3年 森本 めい〕



〔西船場小学校 6年 中島 樹心〕



〔明治小学校 4年 本田 貴希〕



〔九条北小学校 6年 前田 匠人〕



〔九条東小学校 5年 下家 颯音〕



〔九条東小学校 5年 大山 奈々未〕



〔九条南小学校 6年 小笠原 総一郎〕



〔九条南小学校 6年 良元 愛梨〕



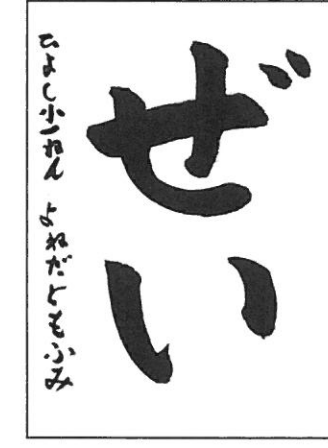
〔九条北小学校 5年 伴 日和〕



〔日吉小学校 6年 漆原 恵那〕



〔日吉小学校 3年 竹下 結望〕



〔日吉小学校 1年 米田 朋史〕



〔堀江小学校 4年 長野 幸実〕



〔堀江小学校 4年 二階堂 悠月〕



〔堀江小学校 3年 中村 つむぎ〕



〔明治小学校 5年 羽田野 沙耶〕



〔明治小学校 2年 若松 太一〕



〔堀江小学校 3年 宮城 純樹〕



〔堀江小学校 4年 田中 夢空〕



〔本田小学校 6年 森 さらさ〕



〔本田小学校 6年 河野 咲希〕



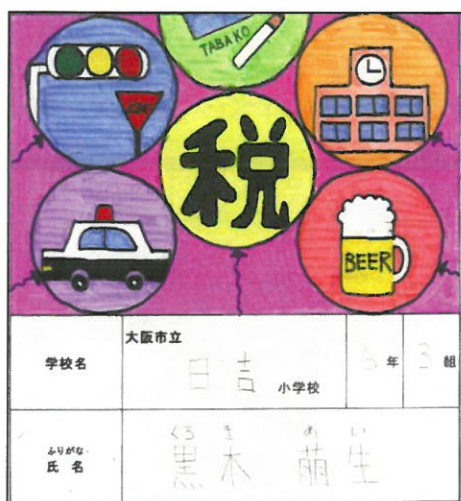
〔西船場小学校 2年 立山 遼成〕



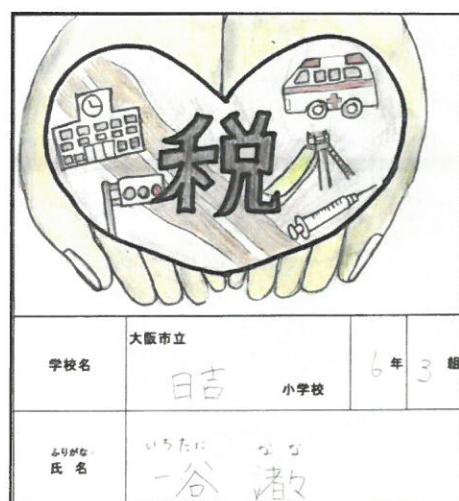
〔西船場小学校 5年 鈴木 侑太郎〕

○小学生の絵はがき

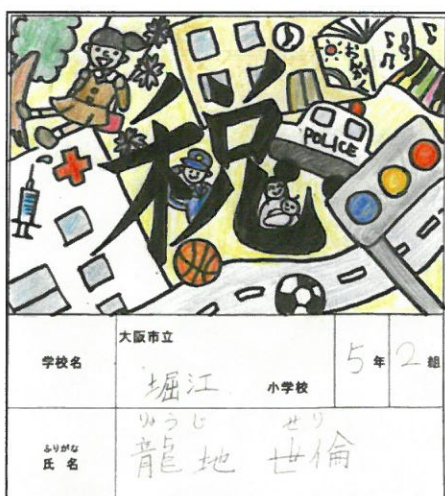
【優秀賞】



〔日吉小学校 6年 黒木 萌生〕



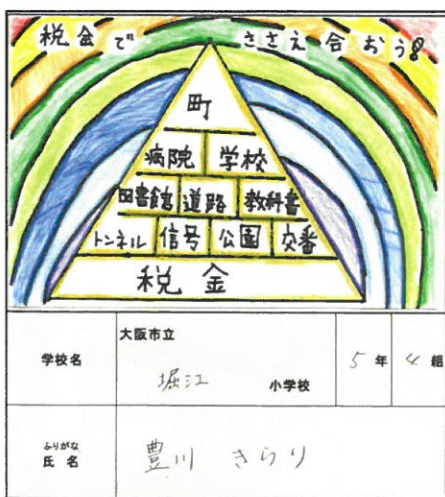
〔日吉小学校 6年 一谷 渚々〕



〔堀江小学校 5年 龍地 世倫〕



〔日吉小学校 6年 大崎 美空〕



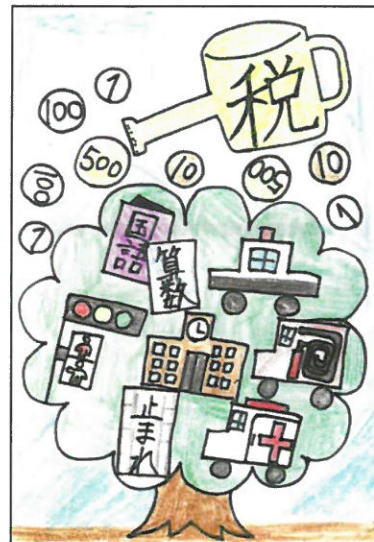
〔堀江小学校 5年 豊川 きらり〕



〔堀江小学校 5年 佐渡 直樹〕



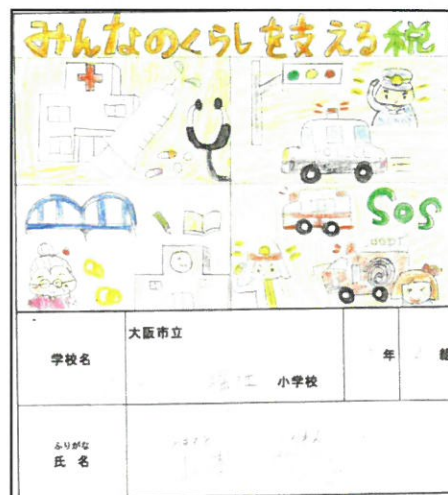
〔堀江小学校 6年 瓜園 桜蘭〕



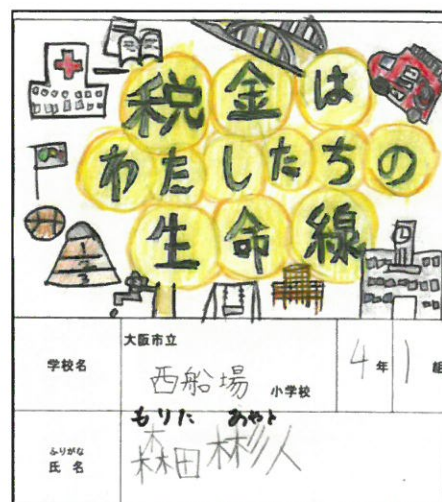
〔堀江小学校 6年 齊藤 花〕



〔西船場小学校 4年 松田 基徹〕



〔堀江小学校 6年 山本 花恋〕



〔西船場小学校 4年 森田 彬人〕

○中学生の標語

【最優秀賞】

税のこと

知ると深まる

社会の和

大阪市立堀江中学校 三年

園 萌寿季

【優秀賞】

税金が

人の暮らしを

守っている

大阪市立堀江中学校 三年 今村 瑠月

未来へと

つなげるバトン

納税だ

大阪市立堀江中学校 三年 山村 悠人

西納税貯蓄組合連合会は、

- 1 期限内完納と振替納税の推進
- 2 電子申告・納税(e-Tax)の普及拡大
- 3 消費税完納推進宣言式等のキャンペーン活動の推進
- 4 中学生の「税についての作文」募集等による租税教育の推進
- 5 税の啓蒙及び税知識の普及
- 6 青色申告普及と青色簿記教室の支援
- 7 広報活動の充実

など、納税道義の高揚のための活動を幅広く行っております。

※ 納税貯蓄組合とは、納税貯蓄組合法(昭和26年4月10日法律第145号)によって設立された団体であり、主な活動は、納税資金の備蓄を通じて租税の期限内納付を推進することを目的としております。

令和元年度 税に関する作品集

令和元年11月

西納税貯蓄組合連合会

西納税貯蓄組合連合会事務局

西納税協会内

〒550-0021 大阪市西区川口2-7-6

Tel 06-6582-3531

大阪市西区租税教育推進協議会

大阪市西区租税教育推進協議会事務局

西税務署総務課内

〒550-8586 大阪市西区川口2-7-9

Tel 06-6583-4750

